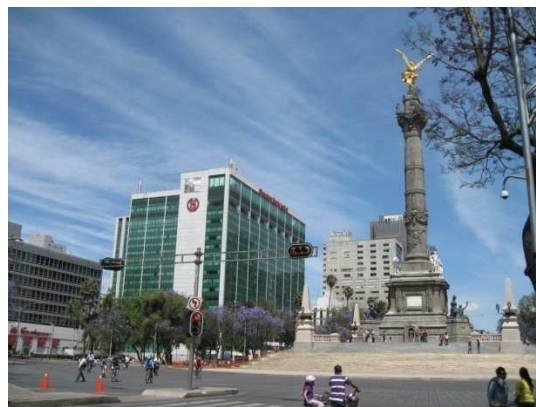


メキシコ日本語教育研究機関訪問

—メキシコ国立自治大学、グアナフアト大学、グアダラハラ日墨文化交流学院—

国際日本研究センター 対照日本語部門教員 高垣敏博

これまでスペイン語圏における日本語(日本文化)教育・研究機関訪問としてスペインのいくつかの大学を訪問してきたが、今回は日本語学習者が多数のメキシコの 3 つの教育機関を視察してきた。2013 年 3 月 16 日から 26 日までの旅程（結果的には Houston における乗り継ぎ失敗により翌 27 日帰国になってしまった）で、首都メキシコシティのメキシコ国立自治大学、つぎに中央高原北部の大学都市グアナフアト、同じく北部にあるメキシコ第 2 の都市グアダラハラで大勢のメキシコ人の日本語・日本文化愛好者を擁するグアダラハラ日墨文化交流学院を訪ねてきた。



1. メキシコ国立自治大学(Universidad Nacional Autónoma de México)

2013 年 3 月 20 日（火）11 時に広大なキャンパス—10 万とも 20 万ともいわれる学生が学ぶメキシコ最大の大学には調査などでこれまで何度か訪れているがその度に迷子になる—の外国語教育センター(Centro de Enseñanza de Lenguas Extranjeras:CEPE)日本語コースの日本語教員（本学日本語学科出身）の長尾和子先生と出会う。





まず図書館横の MEDIOTECA（自律学習センター）を見学させてもらう。語学学習支援センターである。PC が設置され学生が自由にライブラリーから補助教材を選んで自習することもできるし、スカイプを利用して e-Tandem による交流、相互学習も可能である。グループ単位の遠隔授業などについてはセンター外の部屋を利用する。これまで東京外大のスペイン語専攻有志学生とこの大学の日本語学習者とのスカイプによる交流も試みている。履修言語であるドイツ語、フランス語、英語、イタリア語、ポルトガル語、日本語、中国語の 7 言語の学習支援を行う。センターは 95 年に英語とフランス語で開設。2007 年から日本語、昨年中国語、イタリア語が加わった。言語ごとに学習を円滑にするためにワークショップを定期的に行う。例えば、日本語では漢字を勉強し始め、しばらくして漢字学習のためのワークショップがありフィードバックがはかれる。TOEFL にも対応している。また各言語の文法、語彙などのカリキュラムを 10 のユニットに分けた解説カタログも提供される。ネイティブが加わり学習者がその言語で会話できる時間も設定されている。本学の ELC を思い浮かべた。



その後 12 時 30 分から星野由美子先生の日本語の授業に参加（13 時まで）した。日本語は専門科目ではなく、さまざまな学部の学生が自主的に履修している。レベル 5 (A2 程度) ー上級生ないしは卒業生が中心ーの学生 9 名が各自挨拶の後、メキシコのお薦めの土地を日本語で紹介してくれた。準備が出来ているとはいえなかなかよくできる。専門は情報学（英語の先生をめざす）、生医化学、経営学、工学 2 人、法学 2 人（将来日本の大学院への留学をめざす）、教育学、英米文学などさまざま。その後日本語を学ぶ動機を語ってくれた。アニメやポップ音楽から始まり、村上春樹の小説（あるいは夏目漱石や平家物語なども）

であるが、全体としてもともと日本に対するイメージがよさそうだ。これまで訪問したスペインの大学と同じく、入門段階ではマンガ、アニメで、次第に武道、盆栽など日本文化にシフトしているようだ。



メキシコ国立自治大学外国語教育センター「日本語コース」の概要は以下のようである（長尾氏による）。

- ① 教師 7 名（ネイティブ 6 名、ノン・ネイティブ 1 名。うち女性 4 名、男性 3 名）
- ② 授業：レベル 1 からレベル 8 まで（A1～A2, B1 程度）各レベル 2 グループ
レベル 1～6 週 8 時間×16 週間（1 学期 128 時間）[1 年 2 学期制]
レベル 7, 8 週 3～6 時間
能力試験対策コース M3 レベル 週 3 時間（昨年受験した学習者数はメキシコの機関で 1 番多かった）
任意参加の活動：
自律学習センター（会話クラブ）週 1 時間
漢字（初級・中級）・語彙学習ワークショップ 1 学期に 1 回
CEPE での日本人留学生との会話
日本語弁論大会
- ③ 教科書
「新文化初級日本語 1, 2」（レベル 1～5）
「中級へいこう」（レベル 6）
「中級で学ぶ 前期・中期から抜粋」（レベル 7, 8）
「Basic Kanji Book 1, 2」（レベル 1～7）
「Intermediate Kanji Book1」より最初の 5 課（レベル 8）
- ④ 履修登録 300 名強
- ⑤ レベル分け
レベル 1 で選抜される（学部専攻と言語との関係、成績、学年等を考慮）
編入試験を実施（レベル 2 以降は他校からも編入する）
- ⑥ CEFR への対応

CEFR 準拠の JF スタンダードを参考にカリキュラムを調整中
準拠の中間・期末試験も作成中



授業の後は、日本語のあるアジア語科で先生方と面談。ラテンアメリカのスペイン語圏で日本語を教えているのはメキシコが中心であるが、この他はペルー、カリブ地域（グアテマラ、ハイチ、エルサルバドル、コスタリカ）など。JICA の派遣員を含め教員も少規模のようだ。最後に図書館員で旧知の Jesús Valdés 氏と再会、広大なキャンパスを何年かぶりに案内してもらった。

2. グアナフアト大学(Universidad de Guanajuato)

メキシコシティから長距離バスで5時間ほど北上し、街全体が世界遺産の魅力にあふれる古都グアナフアトに移動。月末にかけての聖週間(Semana Santa)で街はお祭り気分が晴れやかであった。またそれに先立つ街独自の「花祭」(Día de las Flores)に遭遇、街路が花屋や手に花束をもって歩く人たちで大賑わい。



そんな折、3月21日(木)にグアナフアト大学へ加藤みどり先生(写真右下)を訪ねる。大学は翌日から連休に入る直前である。大学は小さな街のほぼ中央部に石造りの威風を見せる。正面の大階段の上に聳える建物を見上げる。写真やテレビで何度も見たことのある大学のシンボルである。しかし教室へはその右側を少し歩いたところの通用口から

入る。



加藤先生の部屋は、さらに右に進み、コンパニア教会角を曲がった語学センター(Escuela de Idiomas)の最上階だ。日本語のセクションになっているスペースには教員室、図書室、自習スペース、教室などが一体化し、加藤先生は自習にやってくるメキシコ人学生に親身に対応しておられる。お聞きすると、それまで何もなかったところへ1990年に加藤先生が日本語教育を創設するのに尽力され、今日のように充実してきたようだ。先生はいまメキシコ教師会の今期教師会中部地区代表を務めておられるとのこと。日本語は全学共通(学部により異なる)の外国語科目となりつつあるとのこと。



現在グアナフアトは日本の経済状況を反映し、メキシコを拠点化する自動車産業の基地として変容しつつあるようだ(特に郊外のイラプアト Irapuato を中心に大規模な工業地帯と化しつつある)。日系の自動車関連会社が集中し、従業員の日本語研修、通訳の養成など日本語・日本文化の教育が急務となっている。当然、現地の人々の興味も急増している。

学生数は100人ぐらいで、専任は加藤先生を含めて2人、さらに非常勤数名が教授陣である。プレースメントテストにより6レベルに分けられ、教科書は「みんなの日本語」を

使用。今後日本に対する関心のさらなる高まりとともに日本語教育への重要も確実に増えていく印象をもった。

<u>Organización del material de trabajo</u> <u>el idioma japonés</u>		
Semestre	Gramática みんなの日本語	Kanji みんなの日本語
1	Lec. 1 - 9	Lec. 1 - 6
2	Lec. 10 - 17	Lec. 7 - 18
3	Lec. 18 - 25	Lec. 19 - 25
4	Lec. 26 - 33	Lec. 26 - 34
5	Lec. 34 - 41	Lec. 35 - 42
6	Lec. 42 - 50	Lec. 43 - 50



「日本人教師会」(Asociación Mexicana del Idioma Japonés) のホームページ (<http://www.kyoshikai.org.mx/>) によるとその会員は全国に及び、首都部、北部、中部、東部、北西部、南部などの支部がある。年間計画としては日本語教育シンポジウム、勉強会、短期集中講座、日本語能力試験などの他、日本語弁論大会（メキシコ全体、ベラクルス州、メキシコ北部、中部地区）が盛んである。

3. グアダハラ日墨文化交流学院 (Insitituto de Intercambio Cultural México Japonés)

グアナフアトから今度は西の方向にバスで4時間あまり移動したところに最終訪問地であるメキシコ第2の都市のグアダハラがある。何十年も前に学生時代訪れたきりでその変遷ぶりに驚く。整然と区画整理され、美しい教会や官公庁が並ぶ中心街の町並みに印象づけられる。



そんな中心街から徒歩10分もかからないところにある「グアダハラ日墨文化交流学院」(Insitituto de Intercambio Cultural México Japonés—<http://nichiboku.wordpress.com/>) を3月23日(土)11時に訪問した。住宅街の大きめの個人宅に見えるような建物に、折からメキシコ人の若者が途切れることなく入ってくるのに出くわし驚く。授業の合間で、

授業を終わった者、始まる者が交錯する。いったいどれぐらいの学生がここで日本語を学んでいるのだろう。

学院長土屋紀子先生の案内をうけて、教室を参観したが、玄関のガレージのスペース、キッチン、奥の講堂、2階のいくつかの教室は満員。講堂には45人ぐらい。その他の教室も席はすべて埋まっている。ガレージでも20人近い生徒で埋め尽くされていたのではない。生徒たちの間には日本語・日本文化熱が漂っており、こちらの顔を見るとはにかみながらもはきはきと日本語で挨拶してくれる。



先生方も多く、専任教師は7人（うち日本人3人、メキシコ人4人）、非常勤7人のうちメキシコ人は4人とのこと。教室では若いスタッフが清々しい雰囲気をつくり、学生の興味をうまく引き出している好印象をもった。

生徒数は学期始めと終わりで変動はあるものの300名前後だ。多くの大学の日本語学習者と比べても遜色ないし、個人的に話してみてその習熟度に改めて驚く。最上級のクラスに在籍する5,6名の学生の中にはN2に受かるもの、すでにN1にうかったものもいるようだ。観光学の女子学生、獣医学の女子学生（日本に1か月行った経験）、化学専攻の男子学生の3人はほとんど日本に行ったことなく、N2レベルまで到達している。また俳句オタク（英文学専攻）の男子学生は道を間違ったかもしれないと言っていた。この学院に日本語学習者が集中するのは、大学において十分な態勢を整えられていないことが主因であるようだ。



本学院での授業はつぎのようになっている。

①レベル分け：

レベル Basico 1,2,3 「みんなの日本語 1」 + 漢字

レベル Intermedio 1,2,3,4 「みんなの日本語 2」 + 漢字

4 では能力検定試験 N4 に受かるものもいる

レベル Avanzado 1,2,3

1 「中級へ行こう」 N4

2 「中級を学ぼう 1」 N3

3 「中級を学ぼう 2」 N2

各レベルとも能力検定試験対策授業も行う。

②課外活動：

書道、料理、篆刻、墨絵、イラスト etc.

寿司とおにぎりの弁当（校長）販売など多様。



メキシコでは戦前、日系人が太平洋岸であわび、えび漁などで活躍。第二次大戦後、日本と敵対したメキシコに住んでいた日系人は海から離れた、メキシコシティおよびグアダラハラに移住させられた事情があるようだ。この学院は 1952 年に開設。もともと日系人の事務所として開設。年中行事、冠婚葬祭、子弟の教育などに利用されていた。後に日系人のための日本語教育をめざし日本企業の寄付により再建。当初は JICA の援助あり、海外青年協力隊、シニア協力隊の派遣あった。土屋先生は 17 年前より本院の校長を務めておられるが、今日の発展はそこご尽力によるものと実感した。

翌日は土屋先生のご家族に近郊の観光地 Tlaquepaque を案内していただき旅を締めくくることができたが、3つの機関訪問を通してメキシコにおける日本語教育の重要性について十分認識が深まった。

(高垣敏博)